

近畿ブロックの取組

近畿ブロック小児がん拠点病院連絡協議会

座長 細井 創

近畿ブロックにおける 小児がん拠点病院整備の進捗状況

1. 京都府立医科大学附属病院
2. 京都大学医学部附属病院
3. 兵庫県立こども病院
4. 大阪市立総合医療センター
5. 大阪府立母子保健総合医療センター

小児がん拠点病院整備の進捗状況

1. 京都府立医科大学附属病院

診療実績

病院名：京都府立医科大学附属病院

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	16件	13件	12件
ALL	8件	3件	6件
AML	3件	2件	2件
CML	0件	0件	0件
まれな白血病	0件	0件	0件
MDS/MPO	0件	1件	1件
非ホジキンリンパ腫	2件	2件	1件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	0件
組織球症 HLH	0件	0件	0件
組織球症 LCH	2件	2件	1件
その他の組織球症	0件	0件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM登録	1件	3件	1件
固形腫瘍	17件	25件	33件
神経芽腫瘍群	4件	2件	1件
網膜芽腫	0件	1件	2件
腎腫瘍	0件	1件	1件
肝腫瘍	1件	2件	2件
骨腫瘍	件	4件	5件
軟部腫瘍	4件	3件	6件
胚細胞腫瘍	6件	5件	7件
脳・脊髄腫瘍	2件	3件	7件
その他	0件	4件	2件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	231人	242人	267人
小児がん入院在院延べ日数	7,047日	5,681日	6,727日
全入院患者延べ数	2,264人	2,352人	2,139人
全入院患者入院在院延べ日数	32,163日	28,083日	27,072日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	29人	31人	24人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	22件	28件	23件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	77人	84人	82人
小児がん患者を紹介した医療機関数	68件	59件	73件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	8件	16件	9件
相談支援センター相談件数	78件	265件	238件
セカンドオピニオン小児がん患者数	24件	17件	7件
再発患者数			
造血器腫瘍	3人	5人	2人
脳脊髄腫瘍	0人	1人	1人
固形腫瘍	2人	1人	3人

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：京都府立医科大学附属病院

1)多職種による集学的治療

- 小児がん専用カンサーボードルームの整備
(ネットカンファレンス対応)
 - 平成27年度カンサーボード：42症例
- 歯科衛生士による口腔ケアの導入
- 理学療法士によるリハビリの導入、筋力回復
- 管理栄養士による献立相談、体調不良時の個別対応や行事食の取り入れ



行事食「冬至」(見た目、彩りの工夫)



嘔気、倦怠感などの症状に応じて個別対応可能



- 個別高等教育、AYA世代にも教育環境提供
- 京都YMCA、保育師によるきょうだい支援
「ぽかぽかはらっぱ」
- 保育士のサポートによる、AYA世代の心理的自立、自己同一性の確立を意識した場の提供
AYA交流サロン「放課後のあそびば」



放課後のあそびば！！(仮)

7月7日(火) 日曜

7月7日(火)より...

いつ

毎月第1・3火曜日
15:30～16:30
(休日は変更になることがあります)

どこで

小児医療センター
カンファレンス室

だれと

中学生以上限定!

なにをする?

ゲーム・映画・おしゃべり・何かに挑戦! など...
みんなで作りたいこと、募集中心!
わいわいするもよし、じっくり何かに取り組むもよし、
どがあえず集まってみて、思いっくまに楽しい時間を過ごしましょう

小児医療センター 22号室 要予約



2) 緩和ケアの整備

- 緩和ケア病棟設置

緩和ケアの対象となった入院患者数: 9件 (平成26年)

- 疼痛緩和専門医による疼痛管理
- 終末期患者および家族への、臨床心理士の介入、死後ケアの導入
- 訪問看護ステーションとの連携による在宅医療推進

病院名: 京都府立医科大学附属病院

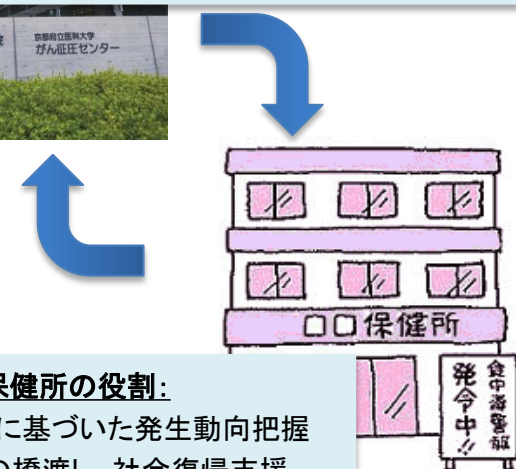


3) 長期フォローアップ体制の整備について

- 小児がん経験者のための相談窓口の開設
 - 3名のがん相談による相談窓口 (H26年: 210件)
 - 当院通院中でない患者にも対応。必要に応じ、長期フォローアップ外来に紹介
- 保健所との連携
 - 当科より、京都府下の保健所に3名医師を派遣
 - 京都府下の小児がん発生患者の動向把握、社会復帰支援、就労、就職支援、福祉への橋渡し

病院と保健所の連携:

長期フォローアップカルテ、カンファレンスによる診療情報共有



長期フォローアップと地域保健所の役割:

- 小児慢性特定疾患申請に基づいた発生動向把握
- ニーズの把握と福祉への橋渡し、社会復帰支援

病院名：京都府立医科大学附属病院

4)集学的医療の実施体制

永守記念最先端がん治療研究センター
(陽子線治療施設)

平成29年9月供用開始を目標に整備中。

永守記念最先端がん治療研究センター



5)地域連携

- 訪問看護ステーションとの連携による、終末期を在宅で過ごす体制の整備
- ネットカンファレンスシステムを用いた小児がん診療相談(H27年:6回)
- 高度な周術期管理を要する小児がん患者の受け入れとバケットランスファー
 - 岐阜大学より2名、岐阜市民病院より1名、福井済生会病院より1名、など
- 小児がん研究会、研修会の開催
 - 京都府小児がん拠点公開講座(年1回)
 - 京滋小児外科フォーラム(年1回)
 - 京都岐阜小児外科カンファレンス(年2回)
 - ピアサポーター研修(年1回)
 - 在宅看護研修会(年1回)
 - ボランティア養成講座実習(年1回)



事業実績報告

病院名：京都府立医科大学附属病院

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 1402.2万円

- 小児がん医療従事者研修事業 494.2万円
(事業内容) 公開講座、医療従事者対象の研修会(計2回)
(支出内訳): 補助者(臨時職員)給料 448.1万円、パソコン関連消耗品 5.6万円
郵送料 1.5万円、会場費 39.0万円
- 院内がん登録促進事業 180.6万円
(事業内容) 院内がん登録 33件(件数はH26.1~12)
(支出内訳): 登録作業員(嘱託職員)給料等 180.6万円
- がん相談支援事業 451.9万円
(事業内容) 相談件数 210件(電話相談含む)、セカンドオピニオン対応 7件。
(支出内訳) 相談員給料等 442.0万円
医療機関向けパンフレット作成費等 9.9万円
- プレイルーム運営事業 274.6万円
(事業内容) 保育士を配置。
(支出内訳) 保育士給料 225.5万円、プレパレーション用備品費 49.1万円
- 入院患者家族支援事業 0.9万円
(事業内容) 兄弟保育のためのイベント開催
(支出内訳) 保育材料購入費(粘土等)等 0.9万円

小児がん拠点病院整備の進捗状況

2. 京都大学医学部附属病院

診療実績

病院名：京都大学医学部附属病院

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	11件	14件	9件
ALL	6件	4件	6件
AML	1件	1件	3件
CML	0件	0件	0件
まれな白血病	0件	2件	0件
MDS/MPO	0件	2件	0件
非ホジキンリンパ腫	2件	2件	0件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	0件
組織球症 HLH	0件	0件	0件
組織球症 LCH	1件	1件	0件
その他の組織球症	0件	1件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM登録	1件	1件	0件
固形腫瘍	16件	15件	15件
神経芽腫瘍群	3件	2件	2件
網膜芽腫	0件	2件	0件
腎腫瘍	0件	1件	1件
肝腫瘍	1件	1件	1件
骨腫瘍	0件	2件	4件
軟部腫瘍	2件	1件	2件
胚細胞腫瘍	1件	0件	0件
脳・脊髄腫瘍	9件	6件	5件
その他	0件	0件	0件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	274人	215人	223人
小児がん入院在院延べ日数	4,625日	5,912日	5,253日
全入院患者延べ数	20,331人	20,794人	21,153人
全入院患者入院在院延べ日数	356,583日	353,488日	322,047日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	99人	55人	48人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	77件	49件	37件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	61人	30人	67人
小児がん患者を紹介した医療機関数	45件	33件	58件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	7件	15件	10件
相談支援センター相談件数	127件	2,487件	1,651件
セカンドオピニオン小児がん患者数	2件	4件	6件
再発患者数			
造血器腫瘍	1人	1人	-
脳脊髄腫瘍	1人	1人	-
固形腫瘍	6人	4人	2人

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

1) 多職種カンファレンス

病院名：京都大学医学部附属病院

名称	職種	頻度
小児脳腫瘍カンファレンス	小児科医、放射線治療医、脳外科医	月1回
小児整形カンファレンス	小児科医、整形外科医	週1回
造血幹細胞移植カンファ	小児科医、血液内科医、HLA研究員	月1回
小児病理カンファレンス	小児科医、病理診断医、整形外科医	月1回
小児緩和ケアカンファレンス	小児科医、緩和医療スタッフ、看護師	月1回
Dr.NS. カンファレンス	小児科医、看護師、保育士、理学療法士、薬剤師	週1回
復学カンファレンス	小児科医、看護師、院内学級教員、 復学先学校の教員、作業療法士、理学療法士	退院時随時
小児がんユニットカンファレンス	小児科医、外科系医師、放射線治療医	週一回程度随時

2) 緩和ケアの整備

- 病棟と緩和ケアチームが連動し、新規入院患者全例に心理士によるスクリーニングとMSWの面談を行い、「診断時からの緩和ケア」を実践している。
- 外来においても心理士を配置し、MSWも随時外来を訪れ、緩和ケア提供の機会を継続している。

●緩和ケアチーム

身体症状の緩和に携わる医師：4名
 精神症状の緩和に携わる医師：1名
 緩和ケアに携わる看護師：3名
 薬剤師：1名
 MSW：1名

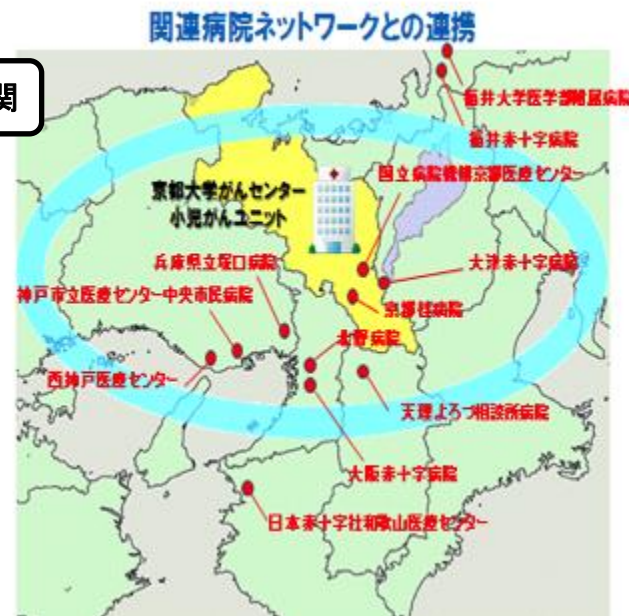
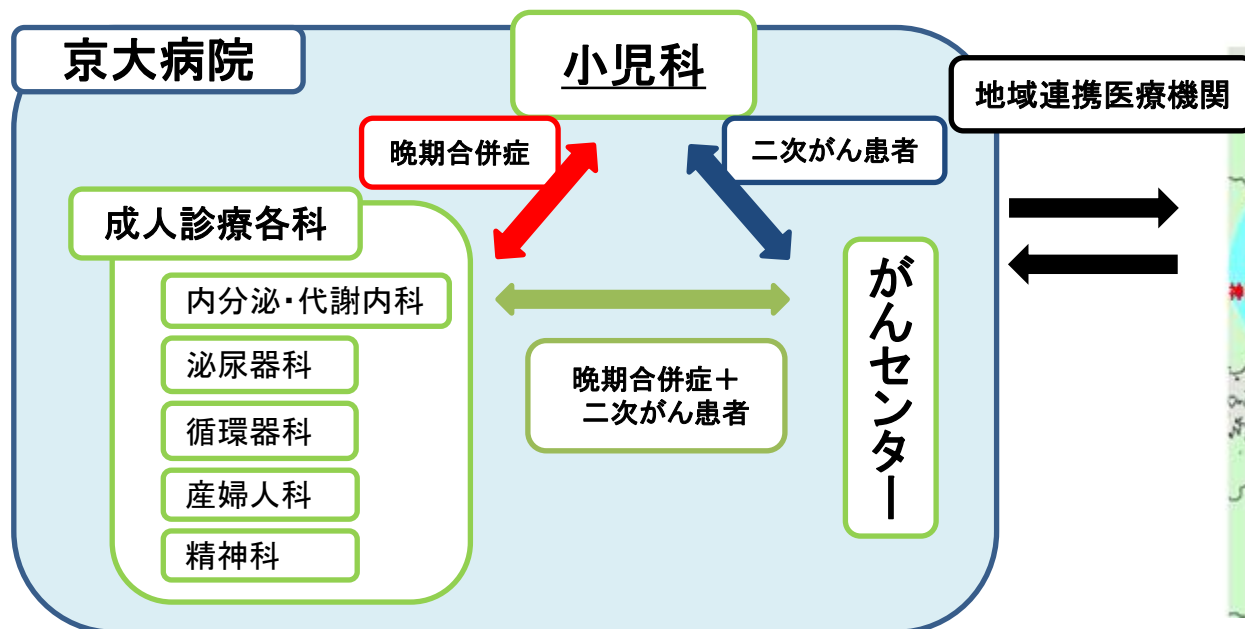
●臨床心理士

病棟：2名（1名が小児専任）
 外来：1名（小児血液腫瘍専従）

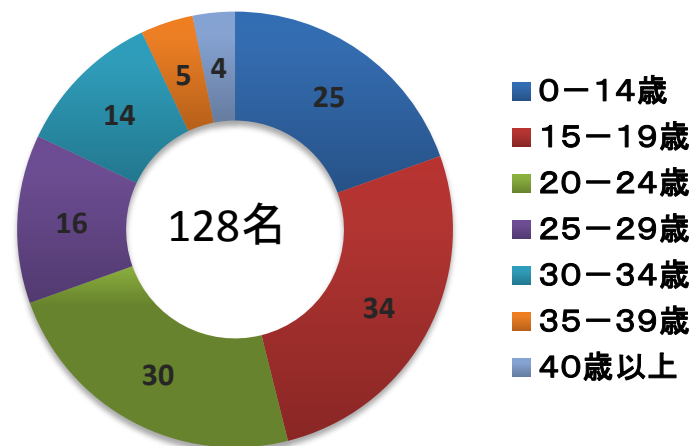
集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

3) 長期フォローアップ外来

病院名: 京都大学医学部附属病院



- 長期フォローアップ専門外来(毎週火曜)を開設
- 晚期合併症に対しては院内各診療科と連携
二次がんに対しては京大がんセンターと連携
- 地域連携医療機関との円滑な連携



集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：京都大学医学部附属病院

4) 診療情報提供について

小児がん診療ホームページ

- 京大病院のホームページにバナーを置き、容易にアクセス可能
- 京大病院の小児がん診療に関する情報を記載
 - ✓ 京大病院の小児がん診療
 - ✓ 外来のご案内
 - ✓ 入院生活のご案内
 - ✓ 専門医を目指す先生への情報 など

Kyoto University Hospital
京都大学医学部附属病院 小児がん診療

HOME 京大病院の小児がん診療 外来のご案内 入院生活のご案内 専門医を目指す先生方へ

子どもも家族も、安心して適切な医療と支援が受けられる『小児がん拠点病院』として。

京大病院の小児がん診療 外来のご案内 入院生活のご案内 専門医を目指す先生方へ

診療体制 症状緩和・心理的ケア

院内学級 保育について

小児がん診療 支援グループ紹介

施設紹介

※ 詳細はこちら

京大病院における治療内容がイメージしやすいよう、診療・支援体制を列挙して説明。小児がん拠点病院に指定時にパンフレットを作成し、近隣の病院や診療所、主な基幹病院宛にお知らせをして情報提供を行っている。

事業実績報告書

病院名: 京都大学医学部附属病院

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 2215万円

・小児がん医療従事者研修事業 42万円

(事業内容) 小児緩和医療講演会(計9回)

(支出内訳) 講師謝礼、招聘旅費

・院内がん登録促進事業 356万円

(事業内容) 院内がん登録、移植相談業務等補助職員、登録データベース用消耗品

(支出内訳) 人件費ほか

・がん相談支援事業 878万円

(事業内容) 小児がん相談、患者・家族交流会、臨床心理士、
がん相談員研修・検討会・協議会、電話相談含め

(支出内訳) がん相談員人件費、協議会等の旅費、がん相談に係る材料費・印刷代、消耗品等

・プレイルーム運営事業費 882万円

(事業内容) 小児がん患者の療養環境の整備、遊具や図書の充実

(支出内訳) 病棟保育士人件費、図書購入費、消耗品

・入院患者家族支援事業費 57万

(事業内容) 入院患者家族の療養環境の整備

(支出内訳) 面談室備品、病室備品費

小児がん拠点病院整備の進捗状況

3. 兵庫県立こども病院

診療実績

病院名：兵庫県立こども病院

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	27件	39件	24件
ALL	13件	15件	6件
AML	5件	6件	3件
CML	0件	1件	1件
まれな白血病	0件	0件	0件
MDS/MPO	6件	3件	3件
非ホジキンリンパ腫	0件	4件	8件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	1件
組織球症 HLH	1件	6件	8件
組織球症 LCH	1件	1件	2件
その他の組織球症	0件	0件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM登録	1件	3件	1件
固形腫瘍	43件	44件	53件
神経芽腫瘍群	7件	3件	5件
網膜芽腫	5件	5件	7件
腎腫瘍	3件	1件	3件
肝腫瘍	3件	1件	3件
骨腫瘍	2件	2件	2件
軟部腫瘍	1件	3件	2件
胚細胞腫瘍	2件	6件	6件
脳・脊髄腫瘍	17件	16件	14件
その他	3件	7件	1件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	477人	509人	529人
小児がん入院在院延べ日数	8,952日	8,661日	9,644日
全入院患者延べ数	88,124人	87,842人	83,540人
全入院患者入院在院延べ日数	82,772日	82,519日	78,260日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	85人	62人	75人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	47件	42件	56件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	7人	29人	33人
小児がん患者を紹介した医療機関数	5件	20件	25件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	7件	14件	11件
相談支援センター相談件数	10件	107件	237件
セカンドオピニオン小児がん患者数	2件	4件	4件
再発患者数			
造血器腫瘍	7件	7件	7件
脳脊髄腫瘍	1件	1件	1件
固形腫瘍	8件	8件	4件



集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

1) 多職種カンファレンス

①病棟カンファレンス(週1回)

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、看護師、薬剤師、検査技師、臨床心理士など

②腫瘍カンファレンス(Tumor Board)(週1回)

血液・腫瘍内科医師、放射線科医師、病理診断科医師、関連外科系各科医師など

③にこにこサポートチームカンファレンス(月2回)

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士など

④小児内科全体カンファレンス(毎日)

新生児科を除く小児内科系全科医師



腫瘍カンファレンス



小児内科全体カンファレンス

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

2) 緩和ケアの整備

血液・腫瘍内科医師、精神神経科医師、麻酔科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などで構成されるにこにこサポートチームを中心として、緩和ケアの提供を行っている。終末期の特に慎重で手厚いケアが必要な事例については、1)③の定期的なカンファレンス以外にも適宜検討会を開いて介入している。

チーム介入小児がん患者数：平成24年 7件
平成25年 14件
平成26年 11件

また骨髄穿刺や腰椎穿刺等の処置を、麻酔科医によるセボフルレン吸入麻酔で病棟にて行っている。これは年間600件以上に及び、多数の小児がん患児の疼痛緩和に寄与している。



麻酔科医による病棟麻酔

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

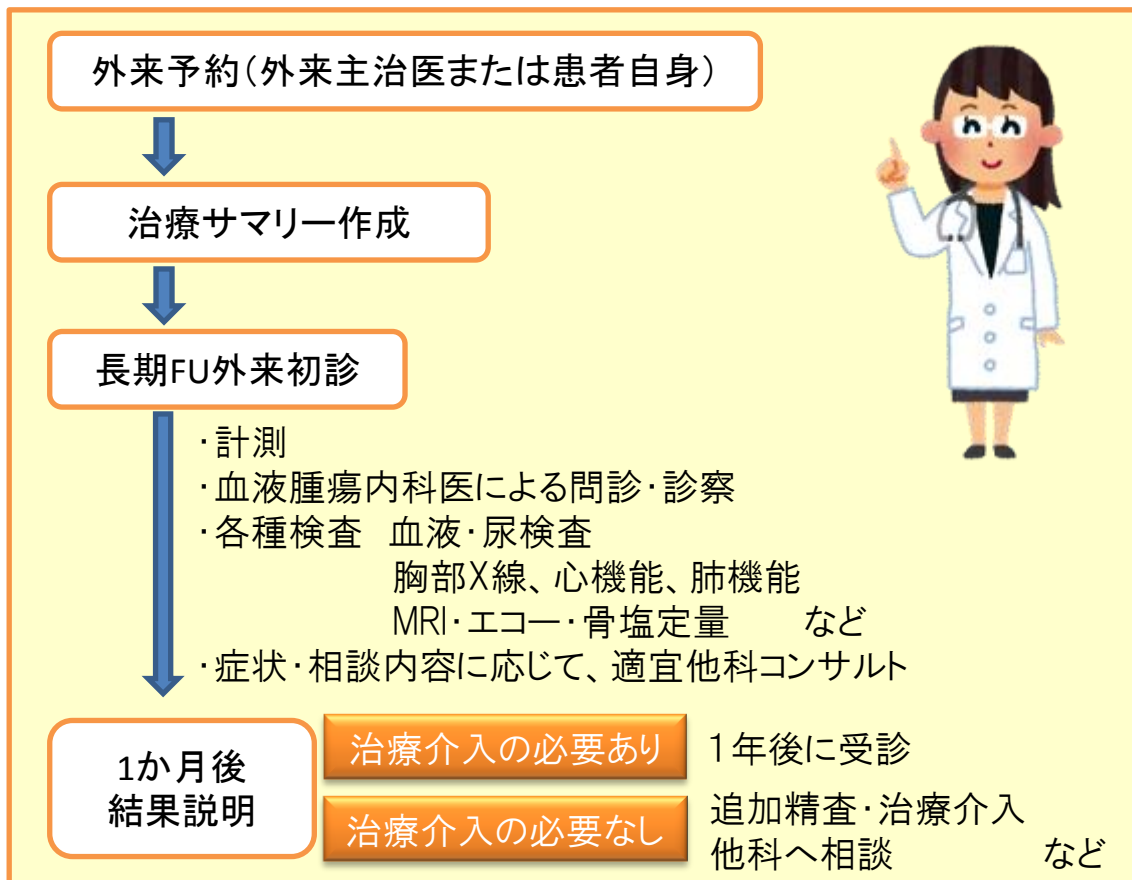
3) 長期フォローアップ外来

病院名: 兵庫県立こども病院

長期フォローアップ外来は毎月第1・2月曜日午後に枠を設け、造血幹細胞移植後、または治療終了後5年以上経過した患者を対象に、おもに血液腫瘍内科、代謝内分泌科でフォローを行っている。患者の症状や相談内容に応じて、循環器内科や外科系各科の併診も可能である。通常外来枠でも相当数の患者をフォロー中であるが、順次長期フォローアップ外来に移行中である。

新規長期FU外来患者数: 平成26年5例、平成27年5例

長期FU外来のながれ



* 長期FU外来の問題点 *

- ・ふだんの定期フォロー外来は受診していても、そこから長期FU外来への移行例が少ない。
- ・小児慢性特定疾患の助成がきれており、医療費の問題からフォローできる検査項目に限りがある。
- ・性腺機能の評価は可能だが、フォローのみ。
妊娠出産を考える際には泌尿器科・産婦人科への紹介が必要
- ・復学・社会復帰に際しての周囲の理解不足に対する対策

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：兵庫県立こども病院

4) 地域連携

①兵庫県立粒子線センター(たつの市)と連携し、粒子線適応のある固形腫瘍症例について平成27年以降、以下の5例の照射を施行している。また平成28年2月より2歳の横紋筋肉腫症例を照射開始予定である。

8歳 上衣腫

19歳 上衣腫

7歳 上衣腫

6歳 胸椎脊索腫

10歳 脊髄MRT

②兵庫県内の小児がん診療病院との連携の強化

・毎年6月に兵庫県小児がん診療病院連携会議を開催している。

・また毎年3回、以下のようにそれぞれ独自性を有した研究会を開催して、小児がん診療病院との連携の強化を図っている。

6月の兵庫県小児血液腫瘍症例検討会は小児血液腫瘍科医による症例検討会

11月の兵庫小児血液懇話会は外部の講師を招いての講演会

1月の兵庫県小児Tumor Boardは放射線科や病理科の医師を交えた画像中心の多職種
の症例検討会である。

③兵庫県がん診療連携協議会に参加して、小児がん診療病院のみでなく県内の成人領域のがん拠点病院とも定期的に情報を交換している。また、広島大学を中心に行われているTV会議『小児がん中国・四国ネットワーク会議』にも参加し、中四国の施設との連携も図っている。

病院名：兵庫県立こども病院

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費	17百万円
・小児がん医療従事者研修事業	1百万円
小児がん拠点病院とのTV会議の開催(月1回)、医師、看護師等の緩和ケアチーム研修等参加(延24名)	
・院内がん登録促進事業	2百万円
入院・外来がん登録の実施(院内登録件数61件)、診療情報管理士・がん登録実務者の連携促進	
・がん相談支援事業	9百万円
面談、電話等によるがん患者の療養上の相談(相談件数290件)、情報提供、がん相談支援センター業務の広報	
・プレイルーム運営事業	5百万円
小児がん入院患者の療養環境を維持・改善するためのプレイルームの運営継続、病棟保育士の配置、絵本・玩具類の購入	
・入院患者家族支援事業	0百万円
小児がん入院患者の付き添い家族等が利用する滞在施設の運営	

小児がん拠点病院整備の進捗状況

4. 大阪市立総合医療センター

診療実績

病院名：大阪市立総合医療センター

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍合計	33	23	32
ALL	14	14	15
AML	4	4	8
まれな白血病	2	0	1
MDS／MPDのうちCML	0	0	0
MDS／MPDのうちCMLを除く	5	1	1
Non-Hodgkin Lymphoma	5	4	4
Hodgkin Lymphoma	0	0	0
その他のリンパ増殖性疾患	0	0	0
組織球症 (HLH)	2	0	0
組織球症 (LCH)	0	0	1
その他の組織球症	0	0	1
その他の造血器腫瘍	0	0	1
Down症TAM 登録	1	0	0
固形腫瘍合計	31	32	36
神経芽腫瘍群	3	4	5
網膜芽腫	2	2	3
腎腫瘍	0	0	2
肝腫瘍	1	0	1
骨腫瘍	0	1	0
軟部腫瘍	4	4	4
胚細胞腫瘍	3	0	4
脳・脊髄腫瘍	17	20	16
その他	1	1	1

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	477	820	775
小児がん入院在院延べ日数	11,918	11,206	10,608
全入院患者延べ数	20,458	21,044	22,202
全入院患者入院在院延べ日数	311,975	312,281	321,507
地域医療			
他施設から紹介された小児がん患者数	147	91	175
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	102	76	118
小児がん患者の他施設への紹介患者数	59	41	85
小児がん患者を紹介した医療機関数	39	44	61
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	45	61	102
相談支援センター相談件数	299	193	310
セカンドオピニオン小児がん患者数	27	28	50
再発患者数			
造血器腫瘍	9	2	14
脳脊髄腫瘍	10	8	10
固形腫瘍	12	12	9

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

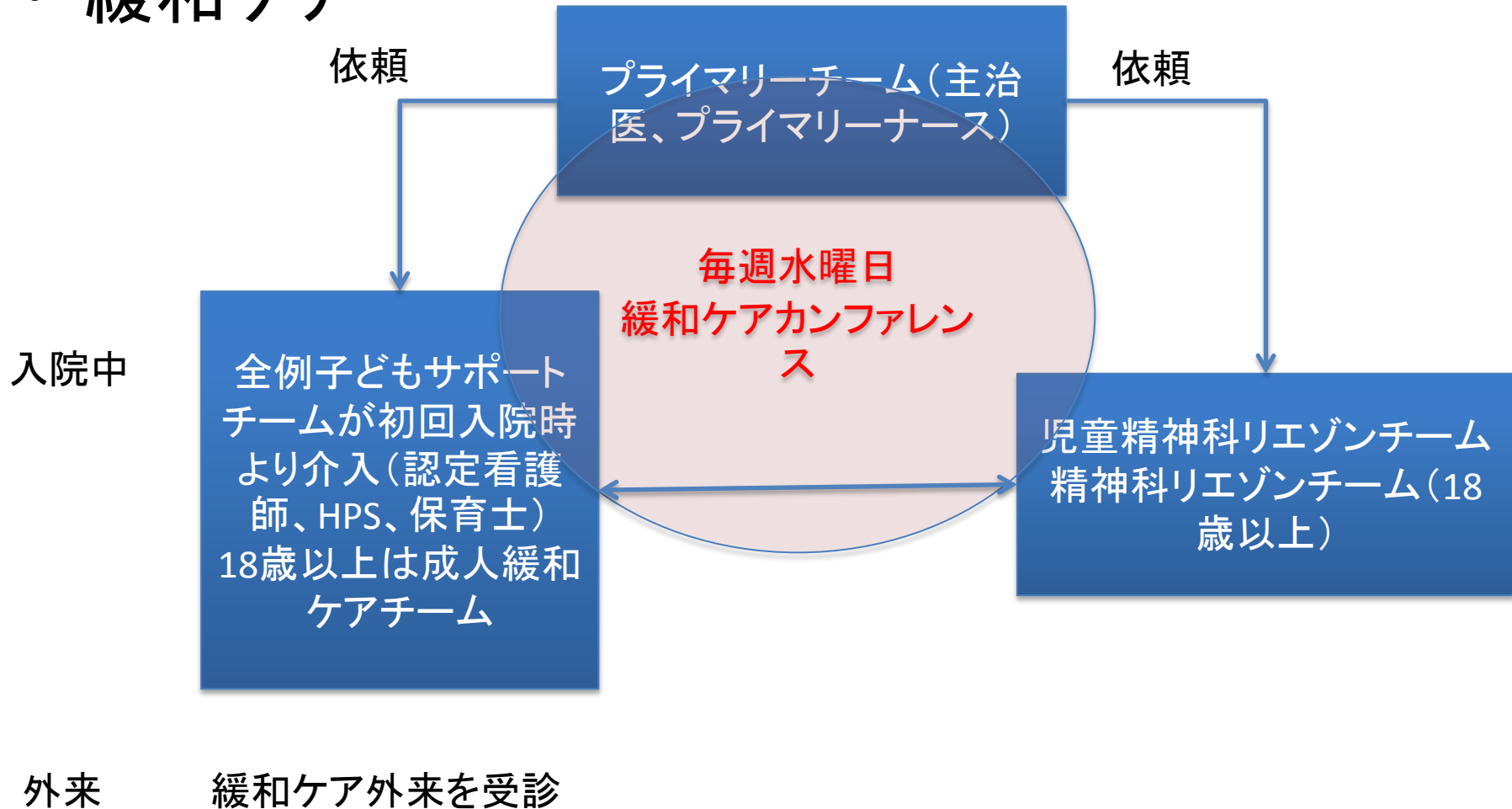
病院名: [大阪市立総合医療センター](#)

- 多職種カンファレンス1
 - 対象: 入院患者
 - 日時: 毎週月曜日に病棟ごとに実施
 - 参加者: 医師(血液腫瘍科・緩和医療科)、病棟・外来看護師、HPS、MSW
- 多職種カンファレンス2
 - 対象: 入院および外来患者
 - 日時: 毎週木曜日
 - 参加者: 医師(血液腫瘍科・緩和医療科)、薬剤師、MSW、心理士
- 多職種カンファレンス3
 - 対象: 長期FU外来受診患者
 - 日時: 金曜日月2回程度
 - 参加者: 医師(血液腫瘍科・小児内分泌科・小児言語科)、長期FU担当看護師、心理士、MSW

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：大阪市立総合医療センター

• 緩和ケア



集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

• 長期フォローアップ外来

病院名: [大阪市立総合医療センター](#)

- 毎週水曜日午前
- 主治医に会いにくるのが唯一の目的とならないように担当は交代制
- 治療が終了し発症から3年以上が経過した患者を対象
- 最低、年1回は成人しても受診
- 医学的のみならず、心理社会的な面からもアプローチ
- 年齢制限なく、40歳代初診患者もあり
- 多角的な支援のためのコーディネーター機能を担う

長期フォローアップ

病院名：大阪市立総合医療センター

看護師が診察に同席。終了後、診察・検査結果および今後の対応をとりまとめて後日家族に連絡
(コーディネーター看護師)

MSWによる問診
不安度のスクリーニング検査

MSWがあらかじめ話を聞くことで私的なことも話しやすくなる

診察
小児血液腫瘍科
小児内分泌科

診察
小児脳外科
小児外科

多職種
カンファレンス

必要な支援と方法について検討

他の診療科
(婦人科、泌尿器科など)

心理カウンセリング
(心理検査)

(児童)精神科

小児言語科(発達)

学校

就労支援

今年度より高次脳機能外来を開設

具体的な就労支援：障害者手帳の取得支援、ハローワーク・職業訓練施設へのつなぎ

その他の支援：**てらこや**(毎週金曜日午後に来外来で教育大学生と当院療育支援室で学習支援)

外来交流会(HPSが中心となって月1回金曜日午後開催)

AYA世代患者会(外来師長、HPSが中心となって開催。不定期)

小児がん拠点病院整備の進捗状況

5. 大阪府立母子保健総合医療センター

診療実績

病院名：大阪府立母子保健総合医療センター

	平成24年	平成25年	平成26年
造血器腫瘍	45件	36件	23件
ALL	11件	11件	8件
AML	11件	6件	5件
CML	2件	0件	0件
まれな白血病	0件	0件	1件
MDS/MPO	3件	3件	1件
非ホジキンリンパ腫	2件	6件	1件
ホジキンリンパ腫	1件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	11件	5件	2件
組織球症 HLH	1件	2件	2件
組織球症 LCH	3件	2件	2件
その他の組織球症	0件	0件	1件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	0件
ダウン症TAM登録	0件	1件	0件
固形腫瘍	28件	18件	29件
神経芽腫瘍群	5件	4件	3件
網膜芽腫	5件	1件	0件
腎腫瘍	0件	0件	3件
肝腫瘍	5件	1件	4件
骨腫瘍	0件	1件	0件
軟部腫瘍	3件	3件	4件
胚細胞腫瘍	4件	2件	5件
脳・脊髄腫瘍	4件	4件	9件
その他	2件	2件	1件

	平成24年	平成25年	平成26年
小児がん入院患者延べ数	362人	390人	407人
小児がん入院在院延べ日数	10,773日	9,424日	9,876日
全入院患者延べ数	8,478人	9,018人	9,239人
全入院患者入院在院延べ日数	108,143日	109,493日	108,261日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	59人	41人	47人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	43件	31件	24件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	27人	14人	21人
小児がん患者を紹介した医療機関数	24件	12件	18件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	13件	11件	10件
相談支援センター相談件数	35件	43件	51件
セカンドオピニオン小児がん患者数	25件	23件	31件
再発患者数			
造血器腫瘍	19人	26人	22人
脳脊髄腫瘍	2人	1人	5人
固形腫瘍	14人	10人	6人

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

病院名：大阪府立母子保健総合医療センター

1) 多職種カンファレンス

- ・病棟カンファレンス(週1回)
- ・Cancer Board(週1回)
- ・トータルケアカンファレンス(月1回)
- ・緩和ケアカンファレンス(隔週)

2) 緩和ケアの整備

●緩和ケアの提供体制

ア. 小児緩和ケアチーム:

- ・「QOLサポートチーム(QST)」を組織している.
- ・2015年12月、「小児緩和ケアガイド」を出版.

イ. 外来において小児の緩和ケアを提供できる体制:

外来看護師 1名.

ウ. トータルケアカンファレンスの開催:

2015年度の実績, 定期カンファ8回, 緊急カンファ1

回.

エ. QSTによる診察が受けられる旨の掲示.

院内掲示板に掲示している.

オ. 主治医・看護師・QSTと在宅医療・訪問看護

による緩和ケアの実施: 2015年度の実績, 4件.

カ. 緩和ケアの要請及び相談に関する受付窓口:

患者支援センター内小児がん相談窓口開設.



2015年12月発行

●診療従事者

- 身体症状の緩和に携わる医師 : 2名
- 精神症状の緩和に携わる医師 : 1名
- 緩和ケアに携わる看護師 : 3名
- 小児がん相談員(小児看護CNS) : 1名
- 薬剤師 : 1名
- 心理士 : 5名
- ホスピタルプレイ士 : 2名

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

3) 長期フォローアップ外来

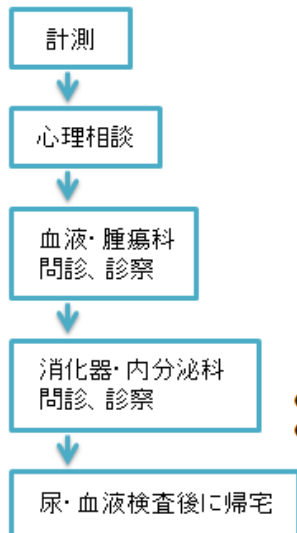
病院名: 大阪府立母子保健総合医療センター

長期FU外来は毎週金曜日の午後に設けており、血液・腫瘍科、消化器・内分泌科、子どものこころの診療科が協働で行っている。治療終了から5年以上が経過した血液・腫瘍疾患の患者を対象に、長期FU外来に移行する。

□ 患者の治療サマリーをあらかじめ作成し、合併症リスクを把握できるようにしている。

●長期FU外来の流れ

■ 外来受診(1回目)



- 月に1回開催
- 医師・看護師・臨床心理士・診療情報管理士

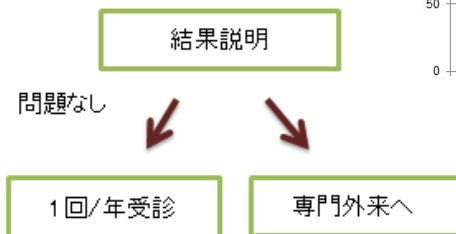
- 必要に応じて、骨年齢や骨密度測定、腹部や甲状腺エコー検査なども追加

●「治療の記録」手帳

過去の治療内容の記録や晩期合併症の内容などを掲載した手帳を配布し、患者自身に合併症のリスクを認識させるようにしている。

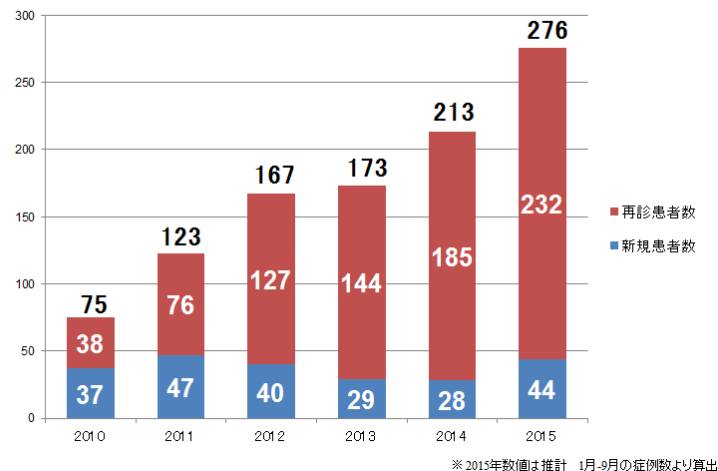


■ 外来受診(2回目)



子どものこころの診療科、小児神経科、腎・代謝科、小児循環器科、小児婦人科、泌尿器科、眼科、整形外科、口腔外科など

●長期FU外来受診患者数



●長期FU外来開設後の問題点

- ✓ 追跡不能な小児がん経験者が多い
移植経験者の同窓会での講演や、一般市民に対するセミナーなどを行い、晩期合併症の啓蒙に努めている。
- ✓ 設備の不備や自費検査であることが原因で、思春期以降の男性の造精能や女性の卵巣予備能を評価できない。
- ✓ 内科に移行困難な成人症例がある。
- ✓ 病名を告知されていない患者への対応。

集学的治療および標準的治療の提供と地域連携

4) 診療情報提供について

情報をHP上でわかり易く情報提供

- 小児がん・白血病ホットライン
小児がん・白血病症例の相談、紹介に対応
- 小児がん相談
がんに関する疑問や不安、悩みに対応
- 新規小児がん患者数
- 研修会の開催情報 など

病院名：大阪府立母子保健総合医療センター

○小児がん・白血病ホットライン

「小児がん・白血病ホットライン」は医療機関・医療者を対象とする24時間体制の専任電話で、小児がん・白血病症例やご相談、ご紹介に血生・標準的治療が対応させていただきます。(患者さんへご家族からの直接のご相談はご遠慮ください)

小児がん・白血病ホットライン

☎0725-57-7677 (※24時間受付専用電話)

○小児がん相談

■小児がん相談について ■こんなときに相談ください ■ご相談方法

小児がん相談

母子医療センターでは、がんと診断された患者さんやご家族からのがんに関する疑問や不安、悩みに対応するために「小児がん相談」を行っています。
「小児がん相談」では、みなさまの相談内容によって担当者を決め、お話を伺い、一緒に問題を解決するお手伝いをします。

小児がん患者数(平成25年)

小児がんの種類	患者数
ALL	11
AAL	7
非 Hodgkin 白血病	0
MFL	0
MDS/NMDS	1
MDS	3
悪性肉腫	4
その他の血液腫瘍	0
Down 症 T 細胞白血病	1
神経芽腫新腫瘍	2
神経芽腫	1
腎臓癌	0
肝臓癌	1
膵臓癌	3
胆膵膵腫瘍(胆膵癌を除外)	3
膵・奇形腫瘍	4
その他	2

※平成25年1月1日現在、大阪府立母子保健総合医療センター管内に発生した患者数を示しています。
※平成25年1月1日現在、大阪府立母子保健総合医療センター管内に発生した患者数を示しています。

○小児がんセミナーのご案内

母子医療センターは、2013年に小児がん拠点病院に指定され、2014年には院内に「小児がんセンター」を組織し、活動をしています。がんの子どもを支える専門職を対象に小児がんセミナーを開催しますので、どうぞ、奮ってご参加ください。

日時	場所	テーマ	事前申込
1月29日(金) 18:00~	当センター 中央会議室	「韓国産血幹細胞移植事情」 韓国サムスンメディカルセンター Keon Hee Yoo 先生	不要
2月6日(土) 13:30~16:30	当センター 研究棟 大会議室	「小児がんの子どもへの教育」 大阪セミナー PDFファイル 118KB	必要 定員70名
3月15日(火) 18:00~	当センター 研究棟 大会議室	「小児脳腫瘍」 関西医科大学付属枚方病院 小児脳神経外科 診療教授 基中 正博先生	不要



より良い小児がん診療を提供するため、さまざまな専門知識を持つスペシャリスト(医師、看護師、医療技術職)を集め、小児がんセンターを開設し、小児がん診療・臨床研究を充実・発展させるとともに、患者及びその家族のQOLを高めるため活動している。

小児がんセンター開設時には、パンフレットを作成し地域の医療機関宛にお知らせしHP上でも情報提供を行っている。

事業実績報告書

病院名：大阪府立母子保健総合医療センター

平成26年度小児がん拠点病院機能強化事業費 1345万円

・小児がん医療従事者研修事業 36万円

(事業内容) 小児QOL、小児脳腫瘍、小児がん病理診断、小児看護(計4回)

(支出内訳) 講師謝礼、会場費、テープ起こし代 36万円

・院内がん登録促進事業 66万円

(事業内容) 院内がん登録 47件

(支出内訳) 診療情報管理士人件費 66万円

・がん相談支援事業 711万円

(事業内容) 電話相談含め137件に対応

(支出内訳) 医師、看護師、メディカルクラーク人件費 711万円

・プレイルーム運営事業費 532万円

(事業内容) 小児がん患者の療養環境の整備、青少年ルーム、親と子の図書館の運営

(支出内訳) ホスピタルプレイ士、心理士、保育士人件費 532万円

近畿地域ブロック連絡協議会整備の 進捗状況

近畿地域ブロック連絡協議会の構成

No.	カテゴリ	施設名	紹介数		逆紹介数	
			H24	H25	H24	H25
1	拠点病院	京都府立医科大学附属病院	26	37	32	36
2	拠点病院	京都大学医学部附属病院	99	55	61	30
3	拠点病院	兵庫県立こども病院	85	74	7	36
4	拠点病院	大阪市立総合医療センター	147	91	59	41
5	拠点病院	大阪府立母子保健総合医療センター	59	41	27	14
6	診療病院	国立病院機構舞鶴医療センター				
7	診療病院	京都市立病院				
8	診療病院	京都桂病院				
9	診療病院	滋賀医科大学附属病院				
10	診療病院	大津赤十字病院				
11	診療病院	福井大学医学部附属病院				
12	診療病院	福井赤十字病院				
13	診療病院	姫路赤十字病院				
14	診療病院	兵庫県立尼崎総合医療センター				
15	診療病院	西神戸医療センター				
16	診療病院	神戸大学医学部附属病院				
17	診療病院	兵庫医科大学病院				
18	診療病院	明石市立市民病院				
19	診療病院	大阪大学医学部附属病院				
20	診療病院	大阪市立大学医学部附属病院				
21	診療病院	近畿大学医学部附属病院				
22	診療病院	国立病院機構大阪医療センター				
23	診療病院	関西医科大学附属枚方病院				
24	診療病院	大阪医科大学附属病院				
25	診療病院	大阪赤十字病院				
26	診療病院	北野病院				
27	診療病院	松下記念病院				
28	診療病院	奈良県立医科大学附属病院				
29	診療病院	天理よろづ相談所病院				
30	診療病院	近畿大学医学部奈良病院				
31	診療病院	和歌山県立医科大学附属病院				
32	診療病院	日本赤十字社和歌山医療センター				

◎ブロック北部



◎ブロック中部



◎ブロック南部



近畿地域ブロック連携のための具体的取り組み

1) 人材育成のための研修会開催

- 小児がん専門医を目指す京都セミナー
- ボランティア養成講座実習(ノートルダム女子大学と協力)
- 京都府病診連携研修会
- ピアサポーター研修
- 在宅看護研修会

2) 診療病院情報の収集と提供システムの整備

- 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会(年2回)
- 近畿ブロック小児がん診療病院連絡会(年1回)
- 京都府小児がん拠点病院連携推進会議(年2回)

3) ブロック協議会の下に設置する部会

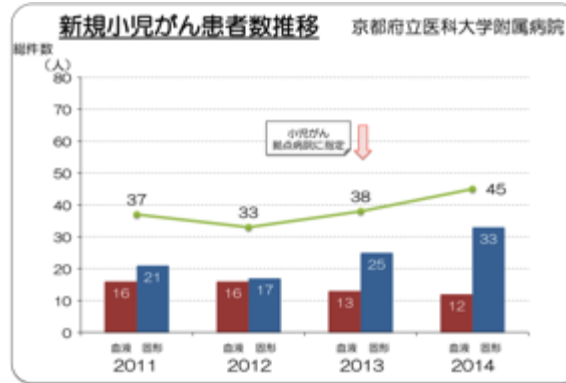
- 近畿ブロック小児がん診療病院連絡会(年1回)

近畿地域ブロックの患者動態

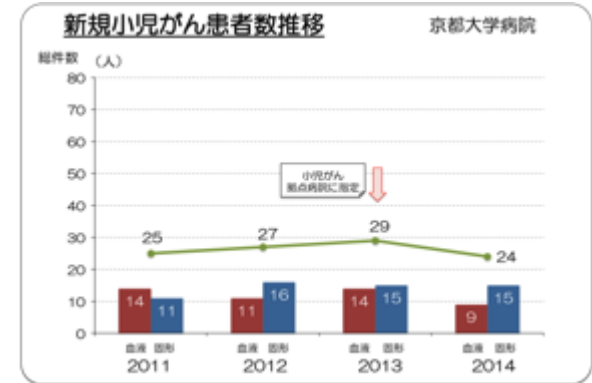
近畿ブロック総数



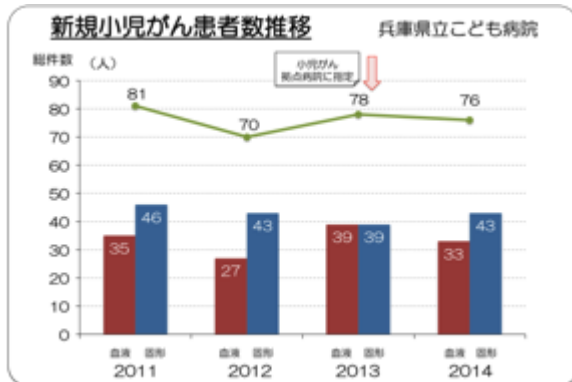
京都府立医科大学 附属病院



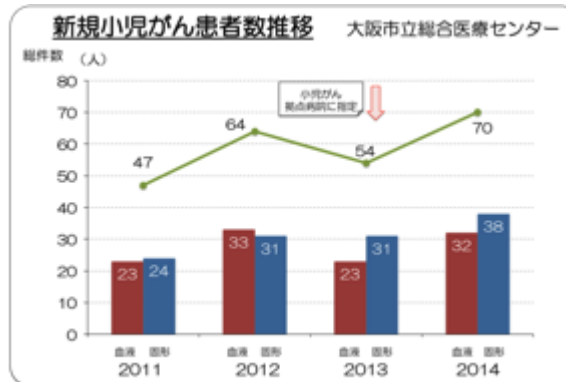
京都大学病院



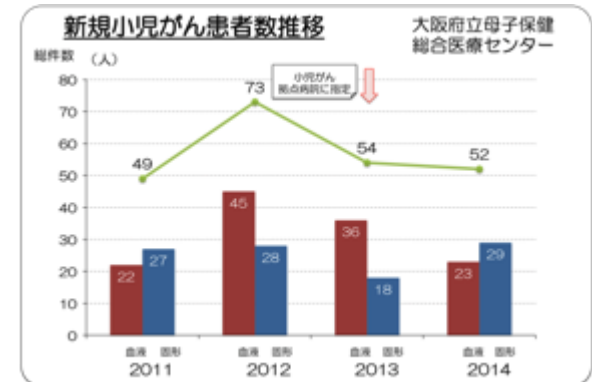
兵庫県立こども病院



大阪市立総合医療センター

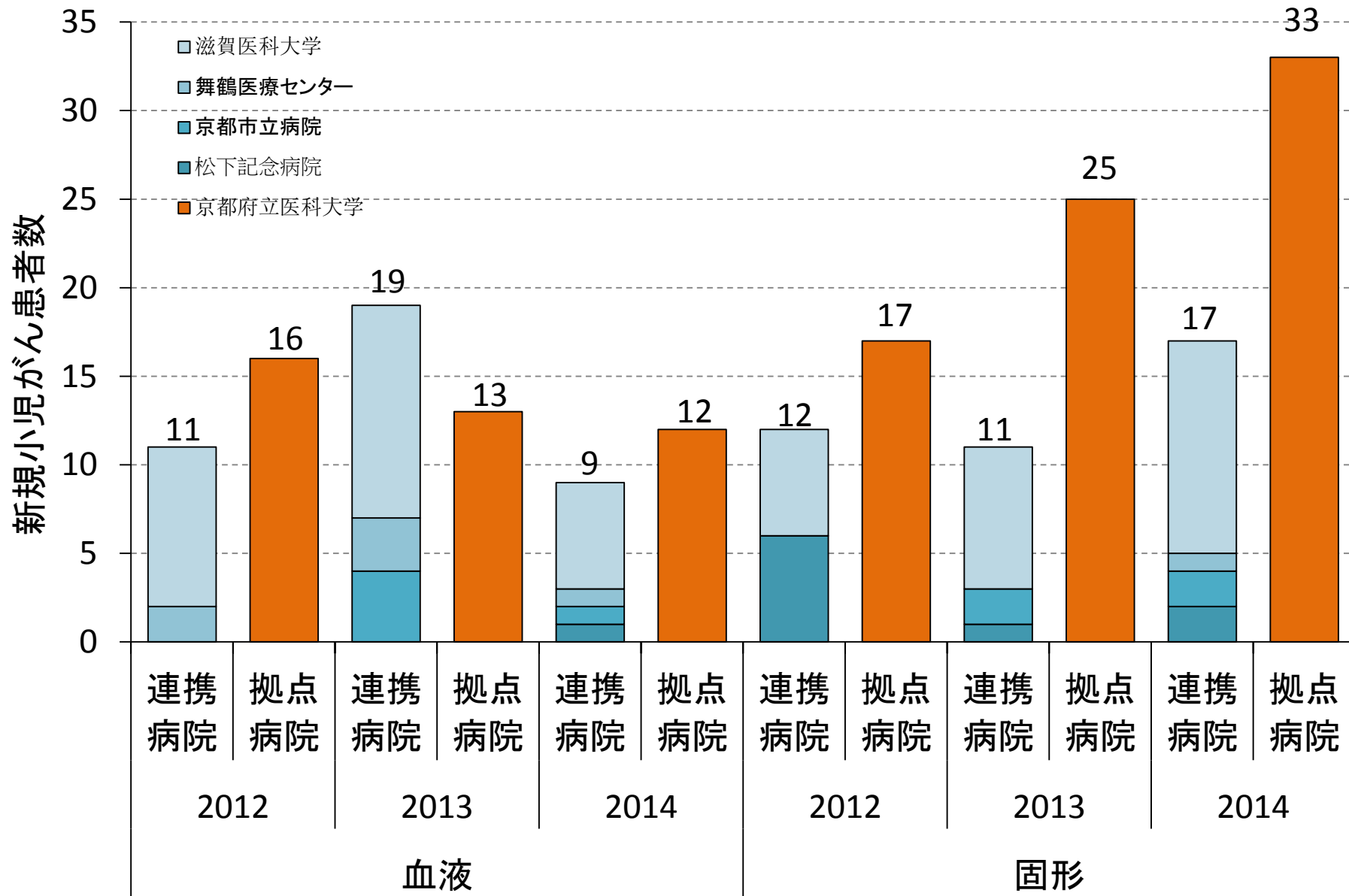


大阪府立母子保健 総合医療センター



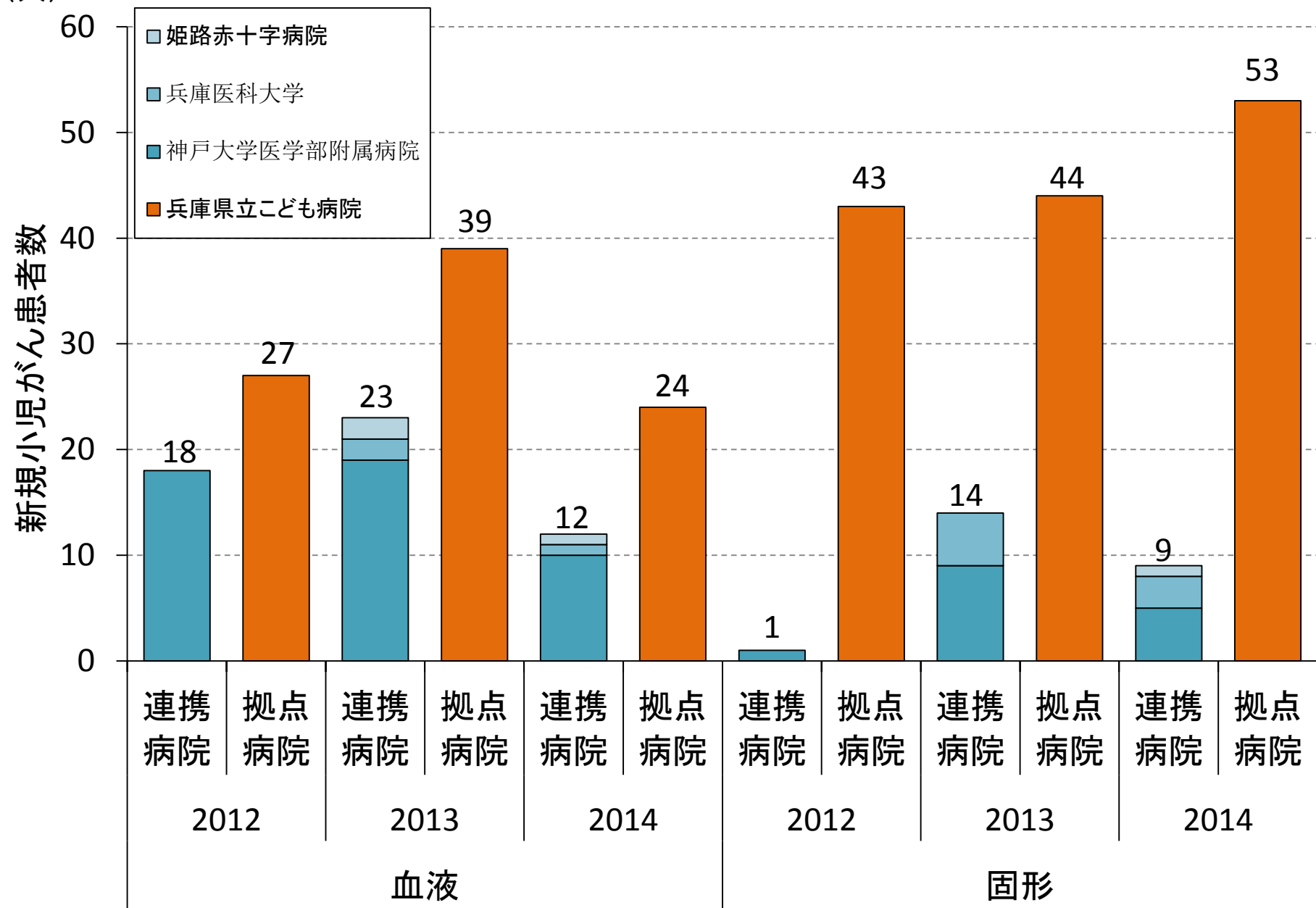
京都府立医科大学附属病院:

(人) 連携病院と拠点病院の新規小児がん患者数の推移



兵庫県立こども病院： 連携病院と拠点病院の新規小児がん患者数の推移

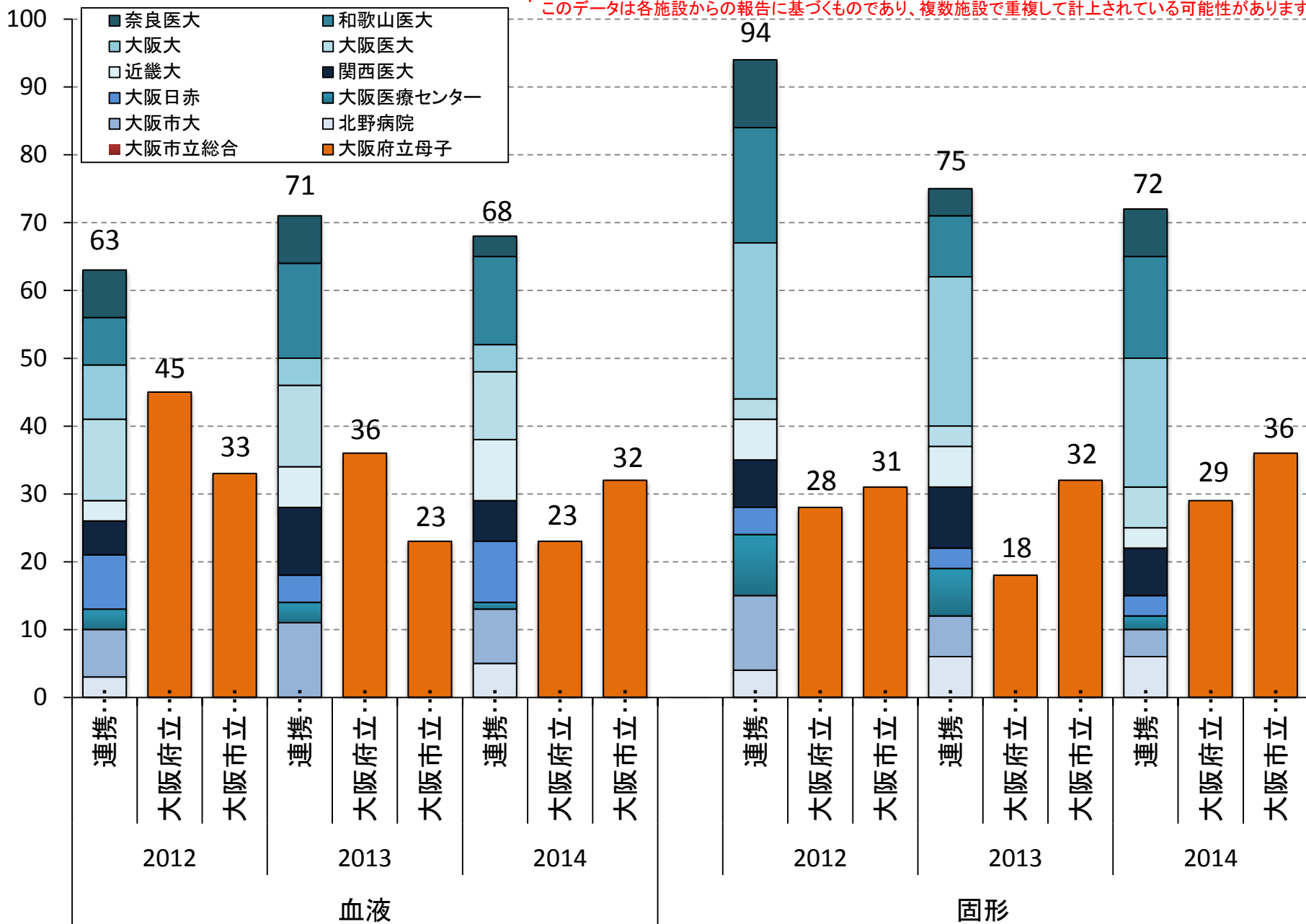
(人)



大阪地区連携病院の新規小児がん患者数の推移*

(大阪市立総合医療センター、大阪府立母子保健総合医療センター)

* このデータは各施設からの報告に基づくものであり、複数施設で重複して計上されている可能性があります。



まとめ

- 近畿ブロックでは小児がん拠点病院ごとに診療連携病院との連携があり、拠点病院を中心に集学的治療および標準的治療の提供と地域連携の整備が進んでいる。
- 各拠点病院では、指定後、固形腫瘍の患者数が増加している傾向があり、固形腫瘍で集約化が進んでいることが示唆される。